

2022 年を振り返り 2023 年を迎える

2023 年 1 月 4 日 尾池和夫

2023 年は癸卯（みずのとう）です。十干の 10 番目にあたる癸と、十二支の 4 番目にあたる卯の組み合わせで、十干十二支では 40 番目にあたる組み合わせです。陰陽五行説では、癸が水の陰のエネルギーを表し、卯が木の陰のエネルギーを表します。

「癸」は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表しています。十干の最後にあたる癸は、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しています。

「卯」は穏やかな兎の様子から安全、温和の意味があり、兎のように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、景気回復、好転する、よい年になると言われています。「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられます。

昨年正月には学長を兼ねる理事長に就任して大学のことが分かってきたと申し上げました。教職員のご努力、学生たちの熱心な取り組みがこの一年、継続的に行われており、役員、副学長、部局長の皆さんのご指導のもと、多くの成果をあげています。昨年指摘した問題点のいくつかはすでに皆さまのご努力を得て改善されてきました。それを元に、さらにこの大学が未来に向かって進んでいく方向についていくつかを今回はお話しておきたいと思えます。大学の持っている使命とそれにもとづく仕事は、教育、研究、学生支援、社会貢献、国際交流、大学運営です。それらの項目ごとに私の現在考えていることとお話いたします。

教育に関しては、昨年新学部の構想を発表し、学内にそれを進めるための委員会が発足しました。本格的に全学のご協力を得て実現を目指したいと思っています。県立大学の場合には県の将来構想との調整ができてから文部科学省との折衝という手順になります。現在県庁の大学課で検討が進められており情報交換しながら進めてまいります。川勝知事にはすでに生涯健康科学という基本テーマを話してご理解いただいています。

2023 年度には教育の認証評価を受けることになっており、現在それに先だって自己評価書をまとめるための仕事を進めていただいております、県に届けている中期目標と関連させながら計画の実現に取り組んでまいります。

電力料金の高騰が計画の進展に阻害要因となっており、さまざまな部分での予想以上の節約をお願いする状況になっていますが、節約して教育の質が保てない状況にならないように、知恵を絞って行かなければなりません。この点に関して皆さまのご協力を特にお願いいたします。

大学コンソーシアムを通じて新しいプログラムの提供も考えられています。また大学コンソーシアムの全国大会が静岡で今年開催されます。それらにもご協力をお願いします。

研究に関しては、この一年も各分野毎に多くの成果をあげていただきました。それらが大学のウェブサイトや新聞紙上を飾っております。県民の皆さんにこれらの研究成果を具体的に理解していただけるよう、広報の仕組みをさらに整えていくことが重要です。

グローバル地域センターでは昨年の 4 月に自然災害研究部門が発足し、幅広く自然災害に関する研究を進めていくことになりました。熱海の災害、台風による災害が発生し、自然の驚異を目のあたりにしながらのスタートですが、着実に活動を始めており、ますます研究体制を充実させていくつもりです。

具体例では私自身も県内の微小地震の発生状況の分析を進めており、南アルプス地域と富士山地域の浅い地震の発生に関して異常に増加している現象があることを注視しながら専門家仲間と議論しています。

教育のことと重なりますが、大学全体を見渡しながらか研究機構を組織化することが必要であると思っています。その中でグローバル地域センターも正式に大学の中に繰り込み、現在の特任教員が専任教員となって大学院生を直接教育できるように改革していきたいと思っており、この方針を知事にもご理解いただいでいて実現の方向への取り組みを始めています。

学生支援に関しては、学生の意向を把握できる体制が必要で、昨年4月からは学生担当の副学長を置き、すでにさまざまな重要事項を扱っていただいでいます。学生自身による自治会活動が進展することを強く望んでおりますが、すでにそのような活動の必要性を考えて積極的に取り組んでいる学生自身の活動があります。これを重視して見守っていきたいと思っています。

今年は学生担当の副学長のもとで奨学金、さまざまな負担の免除の実現などを含め、キャンパス全体の機能の整備など、細かい視点を持ちながら取り組んでまいります。引き続き皆さまのご理解とご支援をいただきたいと思ひます。学食の充実も大きな課題ですが、おかげさまでばたき棟での食堂の再開も実現し、私も毎日メニューを一つずつ体験しながらお世話になっています。

昨年には学生広報大使を任命することができました。すでにウェブサイトなどでも見られる活動が行われており、市民との交流、オープンキャンパスでの活動などが活発に行われております。学内の研究などでの人手不足を補うためのアルバイトでは学生が活躍しておりますが、大学運営の面でも職員の補助業務にさらにたくさんのアルバイトを学内から採用していただきたいと思ひます。公務員に準じる立場で守秘義務がありますから、情報が漏れるなどのご心配は不要です。

大学の役目の一つである社会貢献に関しては、県立大学の立場上これを地域貢献と呼びながら進めてまいります。昨年には第27回の健康長寿フォーラムが渡邊副学長の活躍で開催されました。特に安全と健康で長寿の県を目指すということに重点を置いて酒井副学長の基調講演もありました。これからは本学が中心となって少し形を見直しながらかこのフォーラムを続けて行きたいと思ひます。

その他、社会人向けの講座など、さまざまな取り組みが学内のそれぞれの分野で行われており、私も時に応じて参加させていただいでしております。行事に参加した方たちからたいへん高い評価を得ており、生涯を通じて学習歴を更新するという世の中の流れの中でも地域貢献は重要な分野であると思ひます。大学コンソーシアムを通じて生涯学習に対応するプログラムが用意されるといいと思ひます。

大学の成果を少しでも一般の方々に見ていただきたいと思ひます。さまざまな行事が実行しにくい状況が続いてはいますが、ウェブサイトなどでの広報活動がずいぶんうまくできるようにご努力を続けていただいでいます。さらに例えば草薙キャンパスから富士山を見るライブカメラを設置することによって常時多くの目が県立大学のウェブサイトアクセスしてくれることも期待できると思ひます。

国際交流は、感染症の影響を受けて困難な状況が続く中、教職員のたいへんなご努力で少しずつ進展しています。COILの取り組みは大きな成果を生みつつ一応一段落してまとめのシンポジウムが行われましたが、引き続きこの成果を活かして新しい取り組みを始めることになると思ひます。

また、国際交流の一助にと留学生のための宿舎ができて、杭迫柏樹さんに「富学寮」という書をいただいで額装掲示しました。

中央図書館の移転計画も進んでおり、その跡地を本学が利用して国際交流会館を建設できるようにしたいと思ひます。知事にはすでにこの方針を了承していただいでおり、富沢副学長に担当していただいで正式に将来計画を検討することにします。中央図書館の

ご協力を得て図面などの資料をいただいております、それらを基にして計画を具体化していきたいと思っています。

大学運営に関しては、昨年 4 月以来一本化した新しい事務組織の中で皆さまのご協力のもとに仕事が進んでおります。現在、仕事の見直しを進めることに取り組んでいただいております、さまざまの制度、規定などを精査する仕事も進んでいます。昨年もたくさんのご意見を寄せていただきましたが、業務の見直しや改善に関連してお気づきのことがあれが大小を問わず、引き続きご教示いただくようお願いいたします。

大学は教職員の努力と活躍によってはじめて機能を発揮する組織です。そのためには人材の確保が必要です。プロパー職員の採用も毎年進めており、現在 27 名のプロパー職員に、すでに各部署で活躍していただいております。引き続き採用を進めてまいります。

学生が大学でまず接するのは職員の方々です。そこでの対応が一人ひとりの学生にとってはこの大学の印象となって残ります。職員は学生と大学の間の重要なインターフェイスの役割も持っています。そのことを常に念頭に置いて、学生に対して親切な仕事をしたいと思っています。

大学を良くしていくのは職員一人ひとりの提案と実行です。それが何よりも重要だと私は思っています。一口に「提案」と言っても、ボトムアップの提案が実現する機能と組織力がこの大学にはまだ充分にはできていないと思っています。予算がない、人手がないと否定することなく、どんな提案であってもお互いが注目して前向きに受け止めて聴いてほしいと思います。基本的に学生のためという提案であれば必ず役立つ内容があります。

優秀教員の表彰も行いました。もちろん教員の研究業績にもとづく教育も学生にとって重要ですが、それを具体的な形に見せていくのが職員の仕事です。

仕事に必要な人材の確保は重要で、限られた人件費の中でのやりくりは人事の進め方を拝見して私も常に注目しております。繰返しになりますが、広報大使の充実と活用など、学生の仕事への起用をお願いしたいと思っています。学生が履歴書に書けるような形での仕事の頼み方を工夫してください。

大学という職場が明るくならないと私はずっと思っています。少なくとも学長室に来られた教職員には、とにかく笑顔で退室していただくという目標を立てて実行しています。笑顔と笑いが大切だと私は信じています。ハラスメントのない職場がまず基本で、その上に次のステップです。快適に学び、研究し、働く環境を実現したいと願っています。ハラスメント対策の精査と改善が必要です。

全学の同窓会が山田会長を中心に活動し、さまざまな同窓会も活動していただいております。大学を支える大きな力として、ますますの活動が期待されます。また、各同窓会からの大学への具体的なご支援もいただいております。さらに同窓会の支部が、例えば大阪支部というよう組織化ができるとういなど感じることがあります。

大学全体の会議の議事録を公開し、常に教職員学生も読めるようにして、決定事項などを共有できる仕組みが必要で、かなり実現してきています。年頭の私の挨拶がどこまで伝わっているかを確認したいと昨年申し上げて、多くの方々から熱心な反応をいただきました。今年もご意見など、簡単に下記の学長宛メールで送っていただきたく存じます。

president (ここに@を入れてください) u-shizuoka-ken. ac. jp

心身の健康に十分留意していただきながら、この一年を楽しく過ごしていただきたいと願っています。ありがとうございました。